

ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆

内装仕上げの制限なし

水系自己架橋形1液アクリルウレタン塗膜防水材

アキアボウスイ

Aqua-Bousui

環境にやさしい使いやすい水系1液形塗布防水材

ベランダの防水に適します!



溶剤系防水材に匹敵する

“水系自己架橋形1液アクリルウレタン塗膜防水材”

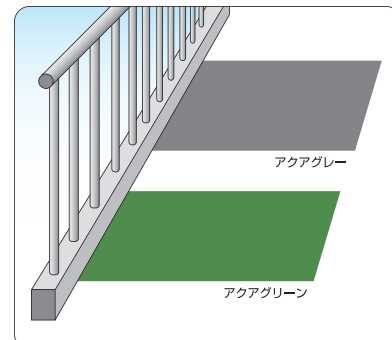
アキアボウスイ

水系自己架橋形1液アクリルウレタン塗膜防水材で、溶剤系防水材の性能に匹敵する、環境にやさしい、使いやすい防水材です。

特長

- 1 防水性**・溶剤系防水材に匹敵するシームレスな防水層を形成します。
- 2 弾力性**・耐亀裂性に優れる弾性を保持し、建物をまもりまします。
 - 伸び率、引張強さ、引裂強さにバランスがとれ、耐久性に優れます。
- 3 安全性**・すべて水系仕様の1液形ですので、施工性、安全性が抜群です。
- 4 施工性**・複雑な部位(出隅、入隅、ドレン廻りなど)にも、容易に施工できます。

標準色



※注) 上記色見本は、印刷のため現物との多少の色差はご容赦ください。

用途

ベランダ・開放廊下・小規模な屋上
(300㎡以下)の防水および美装

[適用下地]

- ・コンクリート・モルタル
- ・各種既存防水層
(ウレタン塗膜防水・シート防水・アスファルトルーフィングシート)

容量

アクアボウスイ 16kg, 4kg
アクアボウスイプライマー 15kg, 3kg

性能

試験項目	試験結果	試験方法
引張性能	引張強さ (N/mm ²)	2.1
	破断時の伸び率 (%)	450
	抗張積 (N/mm)	187
引裂性能	引裂強さ (N/mm)	8.8
	付着強さ (N/mm ²)	1.8
初期耐水性	異常なし	1日乾燥後、水道水×4日浸漬
耐水性	異常なし	水道水×7日浸漬
耐アルカリ性	異常なし	飽和水酸化カルシウム水溶液×7日浸漬
耐酸性	異常なし	5%硫酸水溶液×7日浸漬
耐温水性	異常なし	50℃温水×7日浸漬
温冷繰返し試験	異常なし	水浸漬×16時間→-20℃×3時間→50℃×3時間を10サイクル
ホルムアルデヒド放散量 (mg/L)	0.03	デンケータ法(0.12以下=F☆☆☆☆相当)

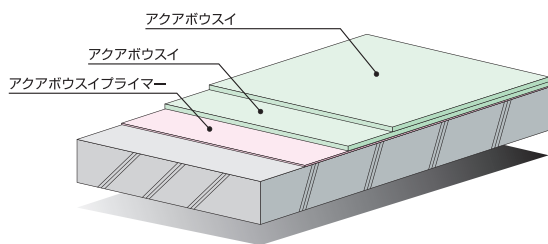
施工仕様

標準工法

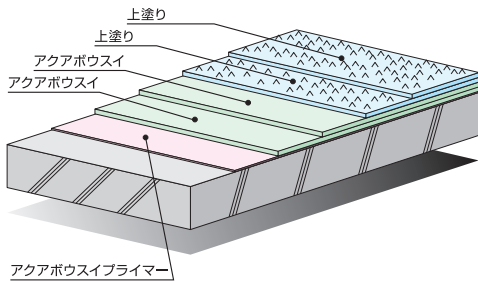
工程	使用材料と施工方法	標準塗付量 (kg/㎡)	間隔時間 (23℃)						
下地処理	<p>■コンクリート・モルタル下地の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下地は十分乾燥させる(含水率10%以下、pH10以下)。 ・コンクリート・モルタル打設後、夏期3週間以上、冬期4週間以上の養生期間が必要です。 ・突起物・レイタンス・砂・じんあいなどをすべて取り除き、油脂分などは溶剤で清掃する。 ・段差、不陸はレインガードで平滑に、クラック部は、Uカット後ウレタンシーリング材を充填する。 ・ピンホールが多い場合は、レインガードをウールローラーで全面に塗付する。 <p>■ウレタン塗膜、加硫ゴムシート、塩ビシート、アスファルトルーフィングシートの改修の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存防水層の汚れ、粉状物、じんあいなどは清掃除去する。 ・ふくれ、はがれなどは完全に除去し、レインガードで、平滑に補修する。 ・防水層切れおよびクラック部は、カッターでV溝にカットし、ウレタンシーリング材を充填する。 ・劣化している既存防水層は完全に除去する。 ・アスファルトルーフィングシート下地の場合は、全面にレインガードをウールローラーで塗付する。(注) (塗付量1.3~1.8kg/㎡塗り重ね可能時間16時間以上) ・塩ビシート下地の場合は、全面にアスファルトシーラーを塗装後、レインガードをウールローラーで塗付する。(注) (レインガード塗付量1.3~1.8kg/㎡塗り重ね可能時間16時間以上) 								
下塗り	・アクアボウスイプライマーを十分にかくはんし、はけまたはウールローラーで均一に塗付する。	0.10~0.15	3時間以上						
防水層塗り (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクアボウスイをかくはん機(スクリュー羽根)を用い、泡を巻きこまないよう均一にかくはんする。 ・出隅、入隅、ドレン廻りなどを、はけで、アクアボウスイを先行して補強塗りする。 ・アクアボウスイをウールローラーで塗りひろげる。(1回目) ・立上り面は塗り回数を増してください。 	0.70~1.10	4時間以上						
防水層塗り (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目のアクアボウスイをウールローラーで塗りひろげる。 ・2回塗りで標準膜厚(0.8mm~1.2mm)を確保してください。 <p>膜厚と塗付量の関係</p> <table border="1"> <tr> <td>膜厚 (mm)</td> <td>0.4</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>塗付量 (kg/㎡/回)</td> <td>0.7</td> <td>1.1</td> </tr> </table> <p>・一度の厚塗りはひび割れの原因になりますので避けてください。</p>	膜厚 (mm)	0.4	0.6	塗付量 (kg/㎡/回)	0.7	1.1	0.70~1.10	(最終養生) 24時間以上
膜厚 (mm)	0.4	0.6							
塗付量 (kg/㎡/回)	0.7	1.1							

■上塗りとして、さらにHPトップSAまたはPAを塗装しますと防水層の耐候性が向上します。

(注) 可塑性移行防止、ブリード止めのため所定量を必ず塗付してください。

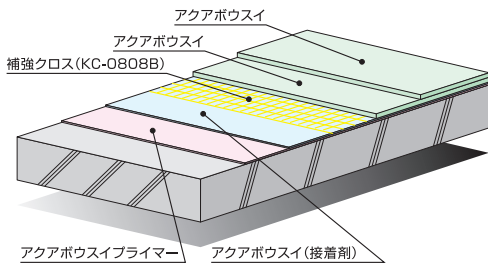


ノンスリップ工法



工程	使用材料と施工方法	標準塗付量 (kg / m ²)	間隔時間 (23℃)
下地処理		—	—
下塗り	(標準工法に準ずる)	0.10~0.15	3時間以上
防水層塗り(1回目)		0.70~1.10	4時間以上
防水層塗り(2回目)		0.70~1.10	4時間以上
上塗り(1回目)	・アクアボウスイ(16kg)に硅砂7号(3kg)を混入し、十分にかくはんする。 ・混合物を清水で希釈(0~10%)後、ウールローラーで均一に塗りひろげる。	0.25~0.50	4時間以上
上塗り(2回目)	・上記に準じ、2回目を塗付する。	0.25~0.50	(最終養生) 24時間以上

補強クロス工法

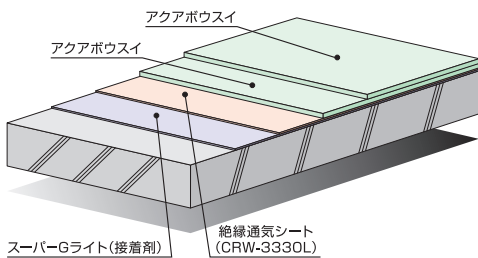


〔 本工法は、補強材を貼り付けることで、防水層の補強と均一な膜厚が得られる。また、下地のクラックによる防水層の亀裂を防ぐ工法です。 〕

工程	使用材料と施工方法	標準塗付量 (kg / m ²)	間隔時間 (23℃)
下地処理	(標準工法の下地処理に準ずる)		
下塗り	・アクアボウスイプライマーを十分にかくはんし、はけまたはウールローラーで均一に塗付する。	0.10~0.15	3時間以上
接着剤塗り	・アクアボウスイをかくはん機(スクリュウ羽根)を用い、泡を巻き込まないように十分にかくはんし、ウールローラーで均一に塗付する。	0.50~1.00	0
補強材貼り	・KC-0808B(補強クロス)の重ねしろは50mm程度とし、しわ、浮きがないように注意する。 ・貼り付けは、立ち上り部、出隅、入隅、ドレンおよび貫通パイプまわりから着手する。	—	4時間以上
防水層塗り(1回目)		0.70~1.10	4時間以上
防水層塗り(2回目)	(標準工法に準ずる)	0.70~1.10	(最終養生) 24時間以上

■上塗りとして、さらにHPトップSAまたはPAを塗装しますと防水層の耐候性が向上します。

絶縁通気シート工法

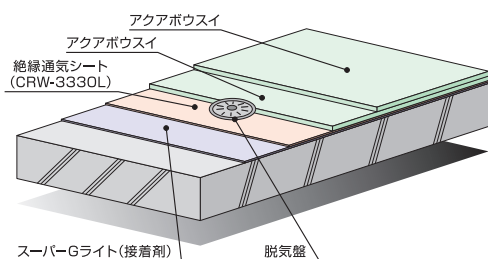


〔 本工法は、防水材を下地に直接密着させず、絶縁通気シートを貼付けることで、下地に含まれる水分(水蒸気)を拡散し、ふくれを防止する。また、下地のクラックによる防水層の亀裂を防ぐ工法です。 〕

工程	使用材料と施工方法	標準塗付量 (kg / m ²)	間隔時間 (23℃)
下地処理	(標準工法の下地処理に準ずる)		
接着剤塗り	・スーパーGライト(クロロレン系接着剤)を十分にかくはんし、下地およびCRW-3330L(絶縁通気シート)の表裏両面にクシペラ等で均一に塗付し15分程乾燥させる。	0.30~0.50	20分以内
絶縁通気シート貼り	・接着剤が十分に乾燥した後、CRW-3330L(絶縁通気シート)を突き合わせ貼りする。 ・CRW-3330Lに、しわ、浮きが生じないようにゴムローラーなどで圧着する。 ・CRW-3330Lのジョイント部分は目地テープを貼りアクアボウスイで補強塗りをする。 ・CRW-3330Lの末端部分はウレタンシーリング材を塗り付け、補強する。	—	1時間以上
防水層塗り(1回目)		0.70~1.10	4時間以上
防水層塗り(2回目)	(標準工法に準ずる)	0.70~1.10	(最終養生) 24時間以上

■上塗りとして、さらにHPトップSAまたはPAを塗装しますと防水層の耐候性が向上します。

脱気盤工法



〔 本工法は、絶縁通気シートの貼り付け、さらに脱気盤の取り付けで、下地に含まれる水分(水蒸気)を拡散し、過剰の水蒸気は、脱気盤を通じて外部に発散し、ふくれを防止する。また、下地のクラックによる防水層の亀裂を防ぐ工法です。 〕

工程	使用材料と施工方法	標準塗付量 (kg / m ²)	間隔時間 (23℃)
下地処理	(標準工法の下地処理に準ずる)		
接着剤塗り	・スーパーGライト(クロロレン系接着剤)を十分にかくはんし、下地およびCRW-3330L(絶縁通気シート)の表裏両面にクシペラ等で均一に塗付し、乾燥させる。	0.30~0.50	20分以内
絶縁通気シート貼り	(絶縁通気シート工法に準ずる)	—	0
脱気盤取付け	・20~50㎡に1個取り付ける。 ・ウレタンシーリング材の部分は、密着性向上のため、アクアボウスイプライマーを塗付する。	0.10~0.15	3時間以上
防水層塗り(1回目)		0.70~1.10	4時間以上
防水層塗り(2回目)	(標準工法に準ずる)	0.70~1.10	(最終養生) 24時間以上

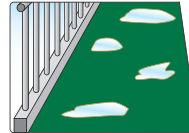
■上塗りとして、さらにHPトップSAまたはPAを塗装しますと防水層の耐候性が向上します。

施工上の注意事項

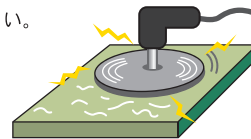


- ・気温5℃以下、湿度85%以上の場合は施工を避けてください。
- ・降雨、降雪、結露の発生が予想される場合は施工を避けてください。
- ・夏期の施工で、下地が高温時に一度に厚塗りをすると、ふくれ、ひび割れが生じることがありますので避けてください。
- ・強風時は施工を避けてください。ひび割れ、材料の飛散などの原因になります。
- ・養生テープの除去は、カッターナイフで切り込みを入れてから行ってください。
- ・下地または既存防水層に水分が含まれていると、ふくれの原因になりますので、乾燥状態には十分気を付けてください。また、水分が乾燥しにくい下地（軽量コンクリート・シリンダーコンクリートなど）や、下地または既存防水層に水分が含まれている可能性がある場合は、ふくれなどの不具合防止のため、絶縁通気シート工法、脱気盤工法での施工が必要なケースがありますので、工法の選択には十分注意してください。
- ・塗膜乾燥過程の初期段階に降雨があった場合、塗膜から界面活性剤が溶出し、雨水が集中する箇所での泡の発生する可能性があります。雨水が河川に流入する恐れがある場合、地域の排水基準に則した管理を行ってください。

- ・凹みに水がたまりやすくと変色しますので、下塗りの前にレインガードを用いて平滑にしてください。

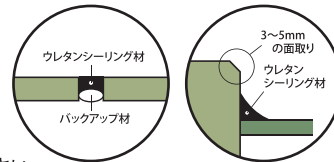


- ・コンクリートのレイトランスやぜい弱部は剥がれを生じますので、あらかじめサンダーなどにより除去してください。
- ・モルタル下地のピンホールはふくれを生じますので、レインガードまたは、セメントフィラーで処理してください。



- ・目地部・入隅部は、あらかじめウレタンシーリング材を充てんしてください。

- ・吸い込みが激しい下地、ぜい弱な下地、泡の発生が懸念される下地などの場合は、下塗りにピナクルシーラーをご使用ください。



- ・アクアボウスイは業者専用品ですので、屋上防水の施工技術のある塗装・防水業者以外の方の使用は避けてください。

- ・カタログに記載されていない下地や施工仕様で施工される場合は、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所にお問合せください。

設計上のお願い



- ・下地は、雨水のたまりが絶対にできないようにあらかじめ水勾配を取ってください。
[露出用屋根（非歩行用屋根）の水勾配：1/50以上、歩行用屋根の水勾配：1/100以上]
- ・出隅、入隅の形状は、下記のようにしてください。
[出隅：半径30mmの丸面または30mm面取り、入隅：半径20mmの丸面]

取扱上の注意事項



●製品を正しく安全にご使用いただくために、下記事項を守ってください。

- 取扱中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の防護具を着用してください。
 - ・防塵マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から取り出すときは、こぼさないようにしてください。もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 臭いは食料品・飲食物・衣類などに、うつる場合がありますので、作業場所から遠ざけるかまたは養生するなど、十分に注意してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。
 - ・特に下記場所の保管は避けてください。
 - ・雨水や直接日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 捨てるときは、産業廃棄物として処分してください。
- 詳細な内容が必要なおときには、安全データシート（SDS）をご参照ください。



営業本部 〒510-0101 三重県四日市市楠町小倉1058-4 ☎059-397-2187 FAX059-397-6191
研究開発本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎059-346-1116 FAX059-346-4585

札幌支店 ☎0133-60-6311 東京支店 ☎03-5661-2211 名古屋支店 ☎052-411-1255
大阪支店 ☎072-862-1601 広島支店 ☎082-277-1116 四国支店 ☎0877-24-4621
九州支店 ☎092-938-0071

取扱店

57

URL <http://www.suzukafine.co.jp/>



□本カタログの内容は、改良などのため、予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

17/10